

I 研究主題 自己評価力を高める評価のあり方

II 実践の内容

1 授業者： 山梨南中学校 辻 純二教諭

1月31日(水) 1年生英語 過去形の学習

【本時の目標】①過去形の使い方に関心をもって学習できる。

②過去の出来事について内容を聞き取れる。

- ①あいさつ・BINGO (全体)
- ②ALTとJTEの会話のリスニング (全体・個)
- ③会話内容のシートへの日本語での記入 (全体・個)
- ④会話内容の英語による概要作成 (グループ)
- ⑤インタビュー (ペア)
- ⑥インタビューをもとにしたライティング (グループ)
- ⑦自己評価シートへの記入 (個)・まとめ (全体)

リスニングシナリオ *G:(ALT) *J(JTE)

J: Did you go to the shrine near your house?

G: No, I didn't. I went to Meiji Shrine.

J: Meiji Shrine? You went to Tokyo.

G: Oh, yes. I went to Tokyo with my friend. He is an ALT. I saw many people around the shrine.

J: Did you wait for a long time.

G: Yes. So I gave up.

J: After that what did you do?

G: I came back to Kofu and went to Takeda Shrine.

J: I went there too. When did you go?

G: On the second of January. How about you?

J: I went there on the 4th. Last year I went there on the 2nd. Did you go to Takeda Shrine last year?

G: No, I didn't. I went to Fuji-Sengen Shrine.

J: Wow!

(×2)

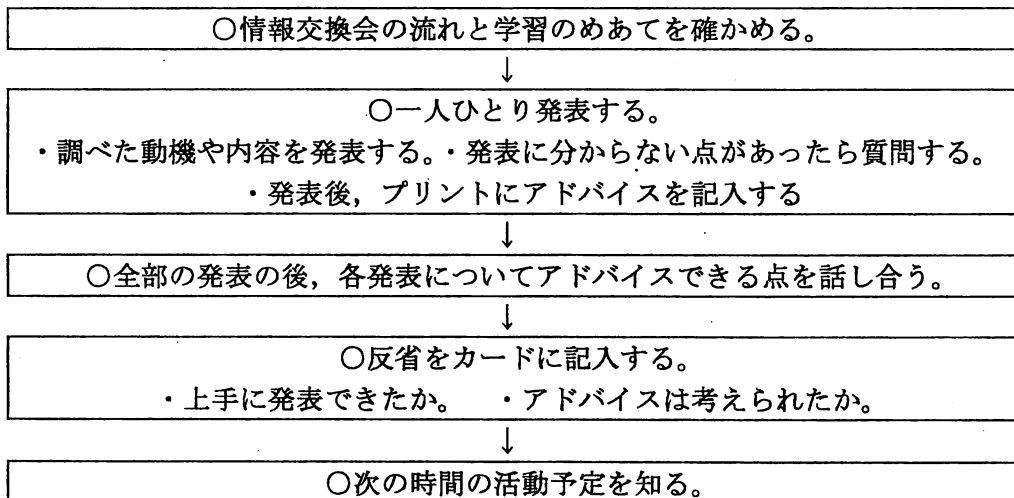
2 授業者： 大和小学校 窪川 純一郎教諭

9月6日(水) 5年生 総合的な学習の時間

「世界を知ろう」(国際理解・文化・情報)

【本時の目標】

- ・調べた動機やわかったこと、参考となる本やサイトについて説明をすることができる。(学習活動に関わる技能・表現)



III 成果と課題

- 1 児童・生徒が正しい自己評価を行えるような指導上の工夫や配慮が必要となる。
- 2 発表や話し合いなど、相互評価を行えるような場面を設定して、自己評価の参考にすることが効果的である。
- 3 自分の活動が中心の場合、めあてを明確に持たせること。何をするか、何ができればその時間の活動が達成されたかを、活動前に話し合うことが重要。また、自己評価の前に見つけたことやわかったことを聞いてみたり、教師からアドバイスをすることで、自己評価の力を伸ばすことができる。
- 4 評価の基準を明確に設定しておくこと。声のものさし、発表のものさしなど、どこまでできれば◎で、何ができれば○となるのか、共通理解を持つことが必要である。
- 5 評価は、次の活動につながる肯定的なものであってほしい。たとえ達成されなくとも、次はこうすれば良いという見通しが大切である。相互評価ができる人間関係を、しっかりと作っていくことが前提となる。そうした人間関係が築かれた中で相互評価ができることが望ましい。

(部長 古屋真吾)